

臨床外科 第26巻 総目次

1971年(第1号~第12号)

数字は通巻頁数, () 内は号数を示す。

〔外科の焦点〕

Polysurgery の臨床的問題……渡 辺 晃……49(1)

上部消化管吻合部における遺残縫合

糸の問題—内視鏡的立場から—

遠藤 光夫・中山 恒明・矢沢 知海

羽生富士夫・鈴木 茂・中村 光司

山田 和毅……391(3)

閉塞性黄疸における上部消化管潰瘍

……新井 正美……714(5)

胃手術効果判定のための統一アンケ

ート方式の提唱

岩 森 茂・笹尾 哲郎・浜井雄一郎

石 井 毅・大屋 正章……889(6)

迷走神経部分的保存胃全摘術—胃全摘

術後の後遺症への新しい対策—

淵 本 悍・石上 浩一・藤井 正隆

渡辺 政徳・江上 富康・山時 好郎

津江 満磨……1023(7)

腹膜炎の新しい治療法—第1編—

渡 辺 晃・村 上 穆・俣野 一郎

柴崎 信吾・佐藤 定見・今 井 徹

小林 正義・加 畑 治・松 本 高

小川 純一・軍司 光夫・大関 庸一……1567(10)

転移性肺腫瘍の治療成績—とくに手

術剔除肺における病理組織学

的所見と手術成績について—

高 橋 邁・橋本 邦久・長島 康之

三浦 千司……1689(11)

〔特 集〕

—これからの外科—

癌の化学療法—制癌剤・手術

との併用療法—

……近藤 達平・市橋 秀仁……69(1)

癌の放射線療法の進歩……御厨 修一……79(1)

癌の免疫療法の可能性……石橋 幸雄……87(1)

癌の手術療法の進歩—とくに早期胃

癌, 小胃癌の手術について

西 満 正・関 正 威・山野辺孝雄

堀 雅 晴・霞 富士雄・菅 野 武……95(1)

外科領域における診断法の進歩

消化器系—食道・胃・大腸の早

期癌を中心として—

遠藤 光夫・市岡 四象・長 廻 紘……107(1)

肝臓・胆道・膵臓を中心に

石川 浩一・菅原 克彦・田島 芳雄

黒 田 慧……117(1)

心臓・血管系を中心に……杉江 三郎……133(1)

臓器移植の現状と将来

—とくに腎移植を中心に—

四方 統男・松井 喜昭・岡 隆 宏……141(1)

外科における医用電子と生体工学

……渥美 和彦……149(1)

—緊急手術後の合併症 I—

緊急手術後の腎不全……太田 和夫……235(2)

外科における糖尿病昏睡とその対策

—case report の解説を中心に—

……赤木 正信・平野 元彦……243(2)

頭部外傷後の発熱の原因とその対策

……戸谷 重雄・中 西 亨……253(2)

腹部外傷手術後の消化管出血

佐 野 進・芳 賀 昭・黄 振 地

佐々木久雄……261(2)

消化管出血による緊急手術後の再出血

星野 喜久・山本 修三・丸山 圭……273(2)

重度外傷の緊急手術後におこつた呼

吸障害……杉 本 侃……281(2)

—緊急手術後の合併症 II—

食道静脈瘤破裂による出血に対する

緊急手術後の肝不全

杉浦 光雄・市原 莊六・野 村 満

二川 俊二……403(3)

不整脈・高血圧・冠不全患者の緊急

手術における麻酔と術後管理

……岡田 和夫……415(3)

開腹手術後各種臨床ショックとその

治療—とくに急性腹部症術後例

を中心として—

渡 辺 晃・俣野 一郎・佐藤 定見
今 井 徹・小林 正義・加 畑 治
松 本 高・村 上 穆・柴崎 信吾
大関 康一……………427(3)

急性肺炎とショック

……………村 田 勇・広野 禎介…457(3)

Poor Risk 患者の緊急手術後の感染

症……………隅田 幸男…473(3)

—外科とくすり—副作用と適正な使用法—

抗生物質の外科的疾患への使用法

—副作用を中心に—……………石引 久弥…553(4)

各種癌に対する抗癌剤の使用

—とくに消化器系について—

……………黒柳弥寿雄・今 永 一…567(4)

外科におけるホルモン療法……………斉藤 純夫…581(4)

がんの“いたみ”に対する薬物療法

……………小山 靖夫…593(4)

鎮痛剤・鎮静剤の使用法……………綿 貫 喆…601(4)

強心・利尿剤の使用法

—心臓領域を中心に—……………長谷川嗣夫…611(4)

利尿剤の使用

—泌尿器科の立場から—

……………栗 田 孝・園田 孝夫…621(4)

外科臨床と血管作動性物質……………伊藤 信義…627(4)

凝固剤使用の実際……………前 川 正…635(4)

抗凝固剤使用の実際……………前 川 正…643(4)

剖検例に見られた薬物の副作用

神山 隆一・高橋 伶子・森 亘…649(4)

—手術とその根拠 I—

甲状腺癌の手術とその根拠

……………伊藤 国彦・原田 種一…723(5)

食道癌に対する胸部食道全剝・胸壁

前食道胃吻合術—吻合部縫合不

全を防止する新しい術式

羽生富士夫・榊 原 宣・小林誠一郎

御子柴幸男・浜野 恭一……………731(5)

食道癌の手術とその根拠

—術前照射、胸部食道癌の手術—

掛川 暉夫・中山 隆市・都築 俊治

有森 正樹・渡 辺 寛……………737(5)

先天性心疾患の手術とその根拠・新井 達太…743(5)

胃・十二指腸潰瘍の手術とその根拠

—幽門側胃部分切除術について—

……………大 井 実…755(5)

胃・十二指腸潰瘍の手術とその根拠

—幽門洞切除兼迷走神経切断術

を中心に—

笠岡 千孝・大久保高明・山岸三木雄…761(5)

胃・十二指腸潰瘍の手術とその根拠

—胃迷切・前壁固定・幽成術を

中心に—……………広田 和俊…769(5)

—手術とその根拠 II—

胆道の手術とその根拠

—乳頭成形術を中心に—

石川 浩一・菅原 克彦・田島 芳雄

小暮 洋暉・野呂 俊夫……………899(6)

胆道の手術とその根拠—胆石症に対

する乳頭形成術について—

……………梅 園 明…909(6)

脾臓の手術とその根拠

—とくに脾炎の手術について—

……………佐藤 寿雄・斉藤 洋一…915(6)

脾臓の手術とその根拠

—急性脾炎の手術—

……………村 田 勇・広野 禎介…925(6)

大腸・直腸手術とその根拠

矢沢 知海・山田 明義・永井 公大

牧 邁・渡辺 修身・平 島 勇

秋 本 伸・鈴木 重弘……………933(6)

門脈圧亢進症の手術とその根拠—胃

上部切除術の意義と評価を中心

に—……………山本 貞博…941(6)

Poor Risk と手術侵襲—術前状態の

把握および胃癌直接死亡例につ

いて—

信田 重光・安 井 昭・高 村 達

荒川 征之・松沢 良和・田崎 博之

池口 祥一・一 瀬 裕・平瀬 吉成…949(6)

—今日の外傷—外傷患者の初診と初療—

EDITORIAL 明日の外傷治療への

指針……………斉 藤 溟…1171(8)

I. 初診時における受傷部位のチェ

ックと全身管理

①外国病院・外傷センターにおけ

る全身チェック方式と患者管理

システム……………隅田 幸男…1173(8)

②外傷患者の初期全身管理と麻酔

……………恩 地 裕…1191(8)

③外傷性ショックとその対策

玉熊 正悦・石 山 賢・菅原 克彦…1198(8)

II. 頭部外傷

①頭部外傷の診断と治療方針のた

- て方……………西村 謙一…1211(8)
- ②頭部外傷治療法の変遷……………都留美都雄…1221(8)
- III. 顔面外傷
- ①新鮮顔面外傷の救急処置と治療方針……………藤野 豊美…1229(8)
- ②鼻の外傷の救急処置と治療方針のたて方……………岡本 途也…1235(8)
- IV. 胸部外傷
- ①肺動脈損傷の診断と治療方針……………鈴木 一郎…1243(8)
- ②心臓・大血管損傷の診断と治療方針……………麻田 栄・岡田 昌義…1249(8)
- ③最近の興味ある胸部外傷症例
- ④丸太材による胸部貫通創……………木下 博…1257(8)
- ⑤心臓・胸部大動脈・肺動脈貫通銃創にて救命しえた1例
星野 喜久・奈良 圭司・新井 健之
村上 勝・井上 彬・大島 啓路
三笠 元彦……………1261(8)
- V. 腹部外傷
- ①腹部外傷の診断と手術方法
星野 喜久・北島 政樹・高梨 利次…1265(8)
- ②肝破裂の診断と手術方法……………内野 純一…1271(8)
- ③脾損傷の診断と手術方法—自験例を中心として
佐藤 寿雄・斉藤 洋一・松野 正紀
芳賀 紀夫……………1281(8)
- ④消化管破裂の診断と手術方法……………村田 勇・広野 禎介…1289(8)
- ⑤最近の興味ある腹部外傷症例
- ④脾頭十二指腸切除により救命しえた重症脾損傷の1例
斉藤 敏明・比企 能樹・重城 明男
横山 勲・中島 竜夫・花上 仁
古屋 正人……………1297(8)
- ⑥潜在性疾患と外傷—門脈圧亢進症を伴っていた脾刺創の1例
大井 竜司・佐野 進・芳賀 昭
黄 振地・佐々木久雄……………1305(8)
- ⑦特異なる経過をたどった胃穿孔を伴える外傷性横隔膜ヘルニアの1例
西島 洋司・菅谷 彪・梅津 武美
渡辺登志男・渋谷 一誠……………1311(8)
- ⑧脾破裂により血胸となつた外傷性横隔膜ヘルニアの1例
熊谷 義也・保坂 陽一・熊谷 直俊…1315(8)
- VI. 骨盤損傷と尿路損傷
- ①骨盤骨折の診断と治療
真喜屋実祐・小田 武雄・杉本 侃…1321(8)
- ②外傷性血尿の診断と治療方針—とくに骨盤骨折との関連において—
斉藤 武志・斉藤 克之・柴 拓
上野 竜夫・末永 文一・佐藤 良祐
宗像富士夫……………1329(8)
- VII. 脊髄の外傷
新鮮頸髄損傷の診断と治療方針……………石川 芳光…1337(8)
- VIII. 血管の外傷
- ①血管外傷の治療方針について……………田代 豊一…1345(8)
- ②大静脈の損傷による出血とその対策……………和田 寿郎・光岡 洋…1351(8)
- XI. 四肢・手の外傷
- ①切断肢の処置・再植……………白羽弥右衛門・上道 哲…1357(8)
- ②手の外傷—救急処置と治療方針のたて方—……………諸橋 政樹…1365(8)
- X. 多臓器の複合重症外傷
多臓器の複合重症外傷患者の診断と治療方針—腹部外傷を中心として—
佐野 進・大井 竜司・芳賀 昭
児玉南海雄・小松伸郎……………1373(8)
- 上腹部痛—誤りやすい疾患の診療—
上腹部急性腹症の診断と治療
斉藤 湊・鈴木 和徳・岩崎 隆
和田 輝洋……………1433(9)
- 上腹部痛を主訴とする急性腹症
—胃・十二指腸穿孔の診断—
四方 淳一・和田 信昭・鈴木 莊一…1437(9)
- 胆石症, 胆嚢炎—
土屋 涼一・赤司 光弘・内村 正幸…1443(9)
- 急性脾炎—
……………村田 勇・広野 禎介…1451(9)
- 特発性食道破裂, 腸間膜血管閉塞症, 腹部大動脈破裂, 解離性大動脈瘤—
……………梅園 明・竹内 成之…1461(9)

小児の急性腹症—幼児期の腹痛を主 訴とするものを中心に— 秋山 洋・石井 勝巳・小平 義彦 佐伯 守洋……………1467(9)	状態からみた手術禁忌を中心に— 石川 浩一・草間 悟・玉態 正悦 古山 米一・野村 和成……………1869(12)
手術を必要としない上腹部痛…山形 敏一…1475(9)	胃癌拡大根治手術の限界について —単発肝転移をどう取扱うべきか— 陣内伝之助・東 弘・伊藤英太郎 野口 貞夫・星野 嘉明……………1875(12)
上腹部痛の病態生理……………木村 忠司…1481(9)	胃癌拡大根治手術の限界について —横行結腸への浸潤に対する合 併切除の意義—……………三輪 潔…1881(12)
—小児外科の焦点—	胃癌拡大根治手術の限界について —膵頭への浸潤に対する膵頭十 二指腸切除の意義と適応— ……………西 満 正・中島 聡総…1885(12)
I. ヒルシュスプルング病 (誌上シ ンポジウム)	術後愁訴をへらすためのくふう—胃 全摘術における β 吻合法につ いて—……………佐藤 博…1891(12)
ヒルシュスプルング病について ……………植田 隆…1697(11)	術後愁訴からみた胃全摘術術式の比 較—Roux-Y 型吻合法か、B-II 法か—……………内山 八郎・加治佐 隆…1895(12)
ヒルシュスプルング病の診断 小林 尚・平本 靖彦・森田 建…1701(11)	胃癌に対する胃全摘出術—術後愁訴 をへらすための消化管再建法に ついて— 大同礼次郎・恵谷 敏・山根 毅 中村 政弥……………1899(12)
ヒルシュスプルング病の生理学的 診断……………鈴木 宏志…1713(11)	
ヒルシュスプルング病の手術—わ れわれの行なっている治療方針 秋山 洋・石井 勝巳・小平 義彦 佐伯 守洋……………1719(11)	
ヒルシュスプルング病の手術 —私はこうやっている—……………矢野 博道…1723(11)	
ヒルシュスプルング病の手術 —Z 型術式と肛門直腸筋切除— ……………池田 恵一…1731(11)	
ヒルシュスプルング病の手術 —われわれのいわゆる駿河法に ついて—……………尾崎 元・駿河敬次郎…1735(11)	
ヒルシュスプルング病の手術 —私はこうやっている—……………里村 紀作…1739(11)	
—胃癌根治手術の問題点—	
胃癌の漿膜浸潤と手術侵襲の程度 ……………井口 潔…1847(12)	
胃癌の進展度および腫瘍の占拠部位 による切除術式の選択……………間島 進…1851(12)	
胃癌の病像と切除範囲の問題点 大森 幸夫・浅井 正典・藍沢 修 石橋 清・金井 明行……………1855(12)	
胃癌拡大根治手術の限界について —S ₁ 以上の症例に対する拡大 根治手術 R ₃ はどのような意 味をもつか?— 田中 早苗・岡島 邦雄・藤井 康宏 中川 潤・河合 達・曾我部興一 竹下 篤範・荒木京二郎・戸谷 完二 寺田 紘一・石川 純……………1863(12)	
胃癌根治手術の限界について—全身	

〔カラーグラフ, グラフ〕

外傷シリーズ<1>～<12> 腹部外傷の臨床 1. 肝破裂と脾破裂 ……………須藤 政彦…7(1)	
腹部外傷の臨床 2. 脾損傷・十二指 指腸後壁破裂・その他……………須藤 政彦…200(2)	
胸部外傷の臨床 1. 胸隔損傷 —とくに多発肋骨骨折— 前中 由巳・松井 康信・今村 洋二 原科 孝雄・伊藤 隆雄……………382(3)	
胸部外傷の臨床 2. 胸部内臓損傷 前中 由巳・松井 康信・今村 洋二 原科 孝雄・伊藤 隆雄……………542(4)	
石灰化せる外傷性上行大動脈瘤 ……………新井 達太・佐藤 禎二…710(5)	
頭部外傷の臨床 1. 頭部外傷患者 の診断……………平井 秀幸・塩原 隆造…858(6)	
頭部外傷の臨床 2. 頭蓋内血腫 手術……………平井 秀幸・塩原 隆造…1014(7)	
顔面外傷の臨床 1. 顔面軟部損傷	

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1158(8)
顔面外傷の臨床 2. 耳下腺・耳下

腺管損傷, 顔面骨折

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1398(9)

顔面外傷の臨床 3. 顔面骨折

一下顎骨・上顎骨折—

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1538(10)

泌尿器外傷の臨床 1. 泌尿器外傷

の初療と腎外傷……………大 原 憲…1674(11)

泌尿器外傷の臨床 2. 下部尿路外傷

……………大 原 憲…1834(12)

〔グラフ解説〕

外傷シリーズ<1>~<12>

交通災害腹部外傷 1. その特殊性

と開腹要否診断

須藤 政彦・伊藤 隆雄・今村 洋二

磯 良 輔・原科 孝雄……………17(1)

交通災害腹部外傷 2. 治療

須藤 政彦・伊藤 隆雄・今村 洋二

磯 良 輔・原科 孝雄……………209(2)

顔面外傷の臨床 1. 顔面軟部損傷

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1167(8)

顔面外傷の臨床 2. 耳下腺, 耳下

腺管損傷について

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1407(9)

顔面外傷の臨床 3. 顔面骨折—上

顎骨骨折

原科 孝雄・磯 良 輔・田嶋 定夫…1545(10)

交通災害泌尿器外傷

—その初療を中心に 1.—…大 原 憲…1685(11)

交通災害泌尿器外傷

—その初療を中心に 2.—…大 原 憲…1843(12)

〔座 談 会〕

これからの外科医と外科教育

牧野 永城・内山 八郎・村上 治朗

熊谷 義也・斉 藤 溟……………24(1)

外科診療と法律をめぐって

松倉 豊治・植 松 正・牧野 永城

高田 利広・山 本 亨・三宅 史郎…866(6)

チームワーク診療における権限と責任

高田 利広・三宅 史郎・牧野 永城

熊谷 義也・山 本 亨・川島みどり…1412(9)

外科学会のあり方をめぐって

斉 藤 溟・星 野 潤・出月 康夫

本多 憲児・岡 村 宏・池田 貞雄…1550(10)

小児ヘルニアの問題点

角田 昭夫・長島 金二・横山稔太郎

飯島 勝一・田村 重宏……………1744(17)

胃癌根治手術の問題点

陣内伝之助・西 満 正・羽生富士夫

和田 達雄……………1904(12)

〔対 談〕

術後腎不全をどうするか

……………太田 和夫・川野 辰夫…218(2)

虫垂炎と誤りやすい小児の疾患

……………大部 芳朗・秋 山 洋…1030(7)

虫垂炎と誤りやすい産婦人科の疾患

……………我 妻 堯・川久保典一…1038(7)

虫垂炎と誤りやすい泌尿器の疾患

……………豊 田 泰・高橋 勝三…1048(7)

〔境界領域〕

動脈硬化症, 高血圧患者に対する手術

……………林 四 郎…161(1)

内分泌疾患の外科

……………藤森 正雄・泉 雄 勝…1085(7)

〔最近の麻酔〕

最近の新しい麻酔剤……………田 中 亮…173(1)

副腎皮質機能異常患者の麻酔……………尾 山 力…323(2)

尿毒症をともなった患者の麻酔

……………白鳥 倫治…679(4)

破傷風患者の管理と治療

—とくに呼吸管理について—

鈴木 紘之・鳥居 有人・阿部 光正

山下九三夫……………793(5)

長期人工呼吸の問題点……………瀬戸屋健三…971(6)

小児の麻酔と管理……………富 永 健…1077(7)

新生児の麻酔と管理……………緒方 博丸…1491(9)

高齢者麻酔の問題点……………河口 太平…1587(10)

〔講 座〕

腹部外科と動脈撮影(1) 外科的にみ

た動脈変異……………鈴 木 敏・川部 克己…181(1)

腹部外科と動脈撮影(2) 肝臓造影像

の多様性とその臨床的意義

……………鈴 木 敏・川部 克己…331(2)

腹部外科と動脈撮影(3) 膵疾患, こ

とに影像よりみた膵癌の予後

……………鈴 木 敏・川部 克己…499(3)

腹部外科と動脈撮影(4) 消化管および腹膜の腫瘍	鈴木 敏・川部 克己	689(4)
腹部外科と動脈撮影(5) 撮影法の改良と動脈カテーテル法による癌治療	鈴木 敏・川部 克己	805(5)
臓器冷凍の理論と応用(1) 組織冷凍と凍害保護物質	隅田 幸男	991(6)
臓器冷凍の理論と応用(2) 冷凍血液細胞の利用とその展望	隅田 幸男	1121(7)
臓器冷凍の理論と応用(3) 臓器の冷凍保存	隅田 幸男	1499(9)
臓器冷凍の理論と応用(4) 低温灌流保存	隅田 幸男・八木 博司	1639(10)
臓器冷凍の理論と応用(5) 第8回低温生物学会と第13回国際冷凍学会の話題から	隅田 幸男	1789(11)
外科領域におけるアミノ酸輸液(4) アミノ酸輸液の実際	早坂 滉・福井 四郎	819(5)

〔論 説〕

All-in-One 人工肺による 稀釈体外循環—510例の開心術知見—	長谷川 正・大堀 克己・長谷川恒彦 宇野 弘昌・金子 正光	345(2)
硬膜外血腫—手術症例58例の検討—	東 健一郎	355(2)
小範囲胃切除症例の検討	榊原 幸雄・松村 長生・櫛田 俊明 蔵本 守雄・渡辺 英生・原田 隆造 谷本 邦彦・江 東 恒・平野 宇一 橋本 常世・西島 早見・田北 周平	511(3)
内頸動脈閉塞症	喜種 美典・山崎 達輔・青木 秀暢 板倉 和資・齊藤 義一	835(5)
感染性動脈瘤の外科治療—とくに抗生物質の投与法と手術手技について—	川上 敏晃・村上 忠司・杉江 三郎	983(6)
成人の肥厚性幽門狭窄症—自験2例と本邦症例の集計—	瀬藤 晃一・五百蔵昭夫・植 松 清 山口 勝敏・藤田 茂夫・関口 孝弘	1095(7)
スキルス胃癌の術後経過と予後	岩 永 剛・熊野 健彦	1101(7)

腸管の癌の臨床病理学的検討	山際 裕史・竹内 藤吉・大西 武司 稲守 重治・堀 英穂・岡林 義弘 伊東 敬之・西 村 誠・大西 長昇 大杉 紘・山 崎 泰弘・中 川 潤	1507(9)
門脈圧亢進症に対する 剝脾—脾-腎静脈吻合との遠隔成績の比較検討による剝脾の適応	青木 春夫・船曳 孝彦・角本陽一郎 羽鳥 俊郎	1597(10)
肛門および直腸に原発せる悪性黒色腫—治験例および本邦集計例を中心に—	奏 温 信・内野 純一・安倍 俊一	1067(10)
四肢の急性動脈塞栓症と外科治療	田辺 達三・久保 良彦・太田 里美 横 田 旻・橋本 正人・杉江 三郎	1771(11)
胆嚢癌の診断と予後	志村 秀彦	1947(12)
乳癌とホルモン	山本 泰久	1955(12)

〔症 例〕

成人に見られた肥厚性幽門狭窄症	竹内 藤吉・大西 武司・稲守 重治 堀 英穂・清水 武	367(2)
胃漿膜を中心とした好酸球性肉芽腫の1例	千葉 庸夫・大沢 一郎・小田嶋栄作 石 川 誠・後藤 勝也・森 照 明	370(2)
回腸ならびに回盲部に併存した非特異性慢性炎症性腫瘍 (慢性型 Crohn 病) の1例	川崎 茂喜・小出来一博・黒沢 孝夫 長島 金二・今 泉 明・東 紳太郎 清家 矩彦・乾 道 夫	523(3)
胃の腺癌と Glomus tumor の合併例	山際 裕史・竹内 藤吉・大西 武司 稲守 重治・堀 英穂	531(3)
巨大な虫垂粘液嚢腫の1例	井ノ口健也・久 瀬 弘・中 村 卓 山川 誠一・明田 昌三	847(5)
乳児気管支性巨大肺嚢胞症の1治験例	浜野 哲男・松山陸典彦・川 端 真 熱田 友義・山中 啓明・井上 舜友 渡辺 正二・松倉 裕美・豊口 昭夫 藤 田 繁・萬 谷 俊・寺島 慶典	1001(6)
腎移植後肺感染症をおこした2症例		

について一肺クリプトコッカス
症と粟粒結核症—
岡村 隆夫・横山 健郎・花岡 健夫
小越 章平・岩崎 洋治・佐藤 博…1133(7)
乳腺癌肉腫の1例
中村 泰也・久下 衷・辻 秀男…1143(7)
われわれの経験せる胃切除後の縫合
不全症例について
……………佐藤 薫隆・松林富士男…1517(9)
胃漿膜下出血を伴った Mallory-Weiss
syndrome の1治験例
加部 吉男・清水 巖・森 一郎
益岡 孝之・向井俊二郎……………1523(9)
腸管の非上皮性腫瘍の2例—消化管
非上皮性腫瘍の統計的観察—
山際 裕史・稲守 重治・大西 武司
竹内 藤吉……………1647(10)
腸間膜嚢腫の1例
奥村 堯・稲川 勝義・岸田 司
大室 雋・亀頭 正樹・大橋 秀一
滝本 昇・安岡 邦彦・木戸口公一…1655(10)
回腸切除を行なった腸チフスの1治
験例
南 一明・瀬戸山元一・長瀬 正夫…1659(10)
アメーバ性肝膿瘍の3例
長瀬 正夫・南 一明・瀬戸山元一…1803(11)
腎移植患者に発症した腹膜炎
—3症例—
木内 政寛・岩崎 洋治・雨宮 浩
岡村 隆夫・横山 健郎・小越 章平
佐藤 博……………1811(11)
 α -fetoprotein test が陽性を呈した
胃癌・肝転移の1例— α -feto-
protein test (第2報)—
岡村 純・栗山 洋・藤本 高義
阪本 俊一・大島 進・鶴飼 卓
大城 孟・村上 文夫・陣内伝之助
桜井 幹巳・宮地 徹……………1819(11)
十二指腸平滑筋肉腫
梶原 美昭・角田 司・滝 紀雄
平井 三郎・古川 正人・押淵 英展
赤司 光弘・古瀬 光・土屋 涼一…1963(12)
電撃傷による広範な頭蓋欠損症の1治験例
倉本 進賢・渡辺 光夫…1967(12)
原発性胆嚢肉腫の1症例
田本 昶司・蜂須賀喜多男・森 直和

石川 覚也・北島 正是・平松 隼夫
河合 誠……………1973(12)

〔研究〕

肝動脈の Cannulation-infusion 技
術の進歩
長谷川 博・北浜 哲夫・伊藤 一二…1109(7)

〔脳外科〕

簡便な Third Ventriculography の
試み
佐藤 修・関野 宏明・真柳 佳昭
佐野 圭司……………1615(10)

〔手術手技〕

豚を利用した肝切除の訓練
長谷川 博・北浜 哲夫・福田 護…1777(11)

〔グラフ〕

ICU の規模と運営……………緒方 博丸…1624(10)

〔外科教育を考える〕

外科医の卒後修練について(6)—済生
会宇都宮病院の場合を中心に—
……………梅園 明…302(2)

〔外科医のための法律知識〕

医療の社会的・法律的責任 1. 診
療に対する画期的認識と医療事
故の防止……………穴田 秀男…488(3)
医療の社会的・法律的責任 2.
……………穴田 秀男…666(4)
医療の社会的・法律的責任 3.
……………穴田 秀男…782(5)

〔トピックス〕

消化管の吻合法について……………掛川 暉夫…486(3)
臓器移植と悪性腫瘍の発生について
……………都築 俊治…664(4)
最近の Achalasia の手術の動向
……………有森 正樹…780(5)
人工透析の適応・最近の変化…………大沢 炯…1363(8)
組織適合性に関する最近の動向
……………辻 公美…1632(10)
湿気と臨床— P_{H_2O} から Sauna-tent
まで……………長谷川 博…1766(11)
甲状腺悪性腫瘍に関する最近の動向
……………原田 種一…1942(12)

〔患者と私〕

- 患者と家族……………佐野 圭司…296(2)
「予後」などについて……………高山 担三…960(6)
医事紛争の経験から……………今 永 一…1068(7)
メスとともに36年……………赤倉 一郎…1760(11)
「誤り」が起きる前後……………本多 憲児…1936(12)

〔学会印象記〕

- 第32回日本臨床外科医学会
宮 本 忍・島田 信勝・葛西 洋一
鈴木千賀志・高山 担三・斉 藤 溥
田北 周平……………313(2)
第8回日本小児外科学会シンポジウ
ム「小児総合医療施設のあり方」
—司会者の1人として—…守屋 荒夫…1634(10)
第24回日本胸部外科学会印象記
……………今野 草二…1768(11)

〔海外だより〕

- Massachusetts General Hospital
に留学して……………角本陽一郎…298(2)
楓の黄葉(1)……………渋沢喜守雄…484(3)
楓の黄葉(2)……………渋沢喜守雄…660(4)
米国における小児外科の最近の動向
……………平井 慶徳…962(6)
ヨーロッパにおける Hirschsprung
病治療の動向……………木 村 茂…1762(11)
第18回国際小児外科学会から…大川 治夫…1938(12)

〔外国文献〕

- 295(2), 308(2), 309(2), 310(2), 483(3), 494(3),
495(3), 496(3), 659(4), 663(4), 671(4), 674(4),
779(5), 787(5), 788(6), 789(5), 959(6), 966(6),
967(6), 968(6), 1067(7), 1071(7), 1072(7), 1073
(7), 1631(10), 1636(10), 1637(10), 1638(10), 1759
(11), 1765(11), 1769(11), 1770(11), 1935(12), 1944
(12), 1945(12), 1946(12)

〔医療の眼〕

- 1074(7), 1197(8), 1206(8), 1718(11), 1972(12)

〔書 評〕

- “Proceedings of the Third Asian
and Australasian Congress of
Anesthesiology”……………緒方 博丸…66(1)
鈴木五郎著「救急処置の実際」

- ……………熊谷 義也…92(1)
H. Vinazzer 著, 内田良一訳「手術
後血栓症とその予防」……………古田 昭一…130(1)
Meek, E. S. “Antitumor and
Antivital Substances of
Natural Origin”……………渋沢喜守雄…280(2)
Pack, G. T. “Tumors of the
Liver”……………都築 俊治…412(3)
高橋辰広著「冠状動脈硬化性疾患」
……………竹 内 正…626(4)
Müller-Osten “Der Beruf des
Chirurgen”……………比企 能樹…672(4)
畔柳武雄・他編「免疫グロブリン」
……………鈴木 秀郎…673(4)
高橋辰広著「冠状動脈硬化性疾患」
……………日野原重明…816(5)
五十嵐正男著「不整脈の診かたと治療」
……………戸山 靖一…833(5)
西岡清春著「全身性疾患と骨」
……………児玉 俊夫…980(6)
堀尾重治著「骨単純撮影法とX線解
剖図譜」……………斉藤 達雄…1280(8)
John L. Hayward “Hormones and
Breast Cancer”……………熊岡 爽一…1442(9)
木島昂著「船を動かすより島を動か
せ—地域医療ルポー—」……………笹 本 浩…1449(9)
荻島秀男・下村克朗著「米国の医学
教育と医療事情」……………熊谷 義也…1459(9)
北村武編「頭頸部腫瘍」……………河辺 義孝…1479(9)
Halmágyi “Veränderungen des
Wasserund Elektrolythau-
shaltes. durch Osmothera-
peutika”……………涌沢 玲児…1688(11)
石橋幸雄著「抗体と拒絶反応」…辻 公 美…1738(11)
Artz & Moncrief “Treatment of
Burns”……………平 山 峻…1788(11)
A.V. Hill 著, 若林勲・他訳「科学
の倫理的ディレンマ」……………時実 利彦…1799(11)
J.G. Teplick・他著, 石井昌三・他訳
「症例解説レ線診断図譜」……………秋貞 雅洋…1849(12)
Karl, M. Bauer 著, 川井 博・他訳
「膀胱鏡写真診断図譜」……………土屋 文雄…1941(12)
「電子顕微鏡による細胞組織図譜
第6巻腫瘍」……………小 林 登…1971(12)
M. Takahashi 著 “Color Atlas of
Cancer Cytology”……………増淵 一正…1976(12)